

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100927		
法人名	社会福祉法人峰栄会		
事業所名	さぎの宮グループホーム		
所在地	浜松市中央区小池町38-1		
自己評価作成日	令和6年 2月 24日	評価結果市町村受理日	令和6年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が4階に設置されている為、景色が良く、天気のいい日には富士山が見え、夏には色々な角度から花火見学ができる。毎日職員は出退勤時に一人一人の利用者に挨拶を行っている。また、利用者の自尊心を保つため、作業後には「ありがとうございます」と感謝の言葉を伝えている。入居者が今までと変わらない環境で自分らしく生活できるよう家具の持ち込みを許可している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設の4階に位置するグループホームである。広々としたテラスには花壇として花を植えたり、野菜などが栽培されている。管理者は利用者の行いたいことをすぐに叶えられるようにしてあげたい、利用者個々の自立を促すようにしていきたいと考えている。4階に位置している事から日々の散歩で1階まで下りてくることに利用者が抵抗があるため、テラスの散歩を日々欠かさず行えるように職員は時間を作り散歩をしている。誕生日会や行事などで利用者の要望を聞きながら食事提供をしている。他職種との連携を密にするための方法などを検討し、疑問を発信して解決に結び付けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差した施設」を基本理念・基本方針とし、買い物は、地域のスーパーを利用している。	施設全体の理念である「地域に根差した施設」を基にグループホーム独自の事業目標を立てている。事業目標に沿って職員が自分自身で目標を立て「目標管理シート」を作成し、半年ごとに確認を行うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動スーパーとくし丸を利用し利用者と一緒に買い物を行う。2ヶ月に1回のアースデイの日に地域のごみ拾いや職員駐車場の草取りを実施している。小池町の夏祭りに参加をし、秋祭りには、屋台と練り・ラッパ隊が来察され、見学を行った。	昨年からアースデイの日として駐車場の草取りや地域のごみ拾いを行うようにしている。秋祭りのラッパ隊の来訪や屋台の出店など地域との交流を育んでいる。月2回移動スーパーも定期的に来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月認知症の勉強会を行い、実践に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会長・民生委員・行政・家族・運営推進委員・包括支援センター職員に参加していただき、行事や事故報告等の取り組み内容を運営推進会議の中で報告をし、意見を伺い、サービスに反映している。	自治会長、地域包括支援センター、民生委員や運営推進委員である家族が参加している。他入居者の家族の参加は今のところないが、多くの家族が参加され意見を募ることを検討している。	施設便りや運営推進会議の議事録などを一緒に送付し、施設での様子が家族にわかってもらうように、また参加しやすい方法を模索することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、取り組み内容を報告している。また、議事録を市役所の担当に送り取り組みの内容を伝えている。	運営推進会議の議事録を行政に送り報告している。細かな情報などは施設に併設されている地域包括支援センターの職員に確認を取るようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では、身体的拘束適正化委員会を設けており、身体拘束のチェックシートの記入及び、職員が拘束の体験を行う等、身体拘束の研修を行っている。また、身体拘束0宣言をしている。	身体拘束適正化委員会が毎月身体拘束の有無について確認を行っており、2～3か月ごとに虐待の防止と身体拘束についての勉強会を実施している。年1回の職員自身でのチェックも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、虐待チェックシートや虐待マニュアルの見直し等の研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員の研修報告を確認することで、権利擁護について学ぶ機会がある。また、現在入居されている利用者に成年後見人や保佐人がついてる方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書や重要事項説明書・重度化指針の内容を説明し、不安や疑問点があれば説明を行い、理解・納得を得たうえで契約書に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で意見や要望を聴く機会を設けている。また、面会時や電話対応時に意見や要望があればうけ、運営に反映させている。	面会時や電話連絡時などで意見や要望を聞くようにしているがあまり要望はなく、話しやすい雰囲気になるように職員は心がけている。運営推進会議の議事録を全家族に配布できていないため今後配布するように考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年3回の面接時、目標管理シートでの個別の意見を聞く機会を設けている。また、日常的にも職員からの意見等を聞いている。	年3回の上長と施設長面談が行われており、職員の意見は早めに解決できる仕組みが整えられている。勤務表とスケジュール表をリンクしてほしいとの要望で、リンク票を作成し早めに予定が立てられるように改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報告・連絡・相談を充実することによって個々の仕事がスムーズに行えるようにし指導している。また、HEK1990の取り組みでは、業務改善に取り組みタイムスケジュールの見直しを行い、働きやすい環境について考えた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修で学んだり、他職員の研修報告を読み学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間交流研修や中堅職員研修を開催し、多職種と交流を行い、意見交換をし、今後のサービスに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の意向を確認し、アセスメントを行い、ケアプランの作成を行っている。アセスメントやケアプランを職員が把握をし、日々の関わりの中で安心して生活が出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望と希望をしっかりと伺い、日々の様子に変化があった時は、家族へ連絡し状態を伝えている。また、受診時に家族の付き添いが必要な場合は同行していただいている。面会時や電話連絡時に日々の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を伺いケアプランに反映しサービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味(塗り絵・歌等む)を職員とともに行い、関係の構築に努めた。また残存機能を活かし、調理や洗濯畳み等を利用者と共に行い、介護される一方の立場に置かず、共に生活する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や外出時に利用者と家族との関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所中、友人・知人等から面会や外線があった時本人に繋ぎ関係性を保つ対応を行っている。	家族や親せきの方と直接電話口で話をしたり、年賀状や暑中見舞いのはがきや手紙などで交流を図っている。ここ数年外に出ることが難しかったが面会時に外出する方も増えてきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の席替えにおいて話題・趣味の合う利用者同士を隣同士にしている。また、寮母室前の椅子に座り、会話をしている利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、その後の様子を確認している。また、相談があれば必要な対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生日会・行事等で利用者の希望要望を伺い実現に努めている。	本人の希望を聞いたり、生活歴から好みなどを推測しその方に合った支援ができるように心掛けている。塗り絵を希望する方には、デイサービスに協力を仰ぎ塗り絵を提供し、一人将棋をする方などもおりそれぞれに楽しむ時間を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に伺った生活歴や環境をアセスメントシートを作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合った個々の過ごし方を提供している。また、調理や洗濯たたみ等の日常生活動作の中で現状の能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、ケアマネとのカンファレンスにおいて意見交換を実施し、ケアプランに反映している。	ケアプランに反映してほしい内容を介護支援専門員と職員が話し合い、今まで以上に利用者の対応に統一性が持てるようになった。介護支援専門員との連携も密にとれるようになり、支援の反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、業務日誌に様子を記入し、職員間で共有している。また、カンファレンス時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に変化があった場合看護師や嘱託医の協力が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動スーパーとくし丸が2週間に1回施設に来寮される為職員と利用者として買い物をしている。美容師来寮し散髪を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望される医療機関に定期的に受診を行っている。また、ご家族が望む場合は、さぎの宮寮の嘱託医に医療機関を変更し、定期的を受診をしている。	法人の嘱託医に全員受診している。専門科に受診している1名は職員が送迎をし、家族が同行している。夜間も看護師や嘱託医に連絡が取れるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送り時、状態変化のある利用者について報告を行っている。点滴・坐薬・吸引が必要な場合は、協力を得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟看護師と連携をとり情報交換を行い、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、家族に重度化指針についての説明を行っており、同意を得ている。	現在看取りは行われていないが、看取りを行いたいとの思いはある。本人と家族には入所時に看取りのできないことを説明している。医療行為が必要になった場合には、変更の話し合いを行い納得のいく方法で移動していただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを定期的に確認している。また、防災・災害時の対応については、防災訓練を毎月実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月と11月の総合防災訓練にて、火災や地震の訓練を実施している。毎月の防災訓練では、水害対策の訓練や炊き出し訓練等を実施している。	法人本部において7日間の備蓄をしており、水はグループホーム独自でも備蓄している。初期消火や炊き出し訓練、発電機の操作方法、テント設営などの防災訓練は毎月実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア時には、利用者に説明を行い、同意を得てから行っている。排泄・入浴時には、扉やカーテンを閉め、プライバシー保護に努めている。	周りの方にわからないように本人にわかる大きさの声で誘導するように心がけている。プライバシーに配慮してドアやカーテンを閉め、周りから見えないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食時の主菜の選択、おやつを選択を行うことで自己決定できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに合わせ、テレビを見たり塗り絵やパズル、歌を歌って過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の美容院にて散髪を行っている。本人の希望で化粧をしたり髭剃りを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操を行うことにより食事を美味しく、安全に食べれるようにしている。また、調理時、職員と一緒に調理や食器の片づけを実施している。	食事前に嚥下体操や手洗いをしている。みそ汁とご飯は自分でよそってもらっており、お茶碗、お椀、箸、湯のみは個人所有の物を使用し食後はご自身で洗浄している。座ってできる事はできるだけ手伝ってもらうように協力いただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量は業務日誌に記載している。医師より栄養状態のアップの指示があった場合栄養補助食品を対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の歯磨きやモンダミンを実施している。また、義歯のポリデント洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄パターンを月間排泄表に記載し、1ヶ月ごとに保管している。	排泄表と日誌から本人のタイミングを図り、誘導するようにしている。排泄チェック表は主治医の排便確認の材料として使用している。便秘予防で散歩や乳製品を飲んでもらうように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルト・ヤクルトを提供している。また、みんなの体操や廊下歩行を行い、運動の時間を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が拒否した場合は、時間や日にちを変更し対応している。体を温める為と楽しんでもらう為入浴剤を使用している。	基本的に週2回午前中の中の入浴を心がけている。主治医と相談して皮膚乾燥の方には家人が持ってきたローションを塗布するようにしている。入浴剤や季節を感じられるゆず湯などを利用し入浴を楽しむ機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人が休息希望時は、居室で休めるよう対応している。天気の良い日にリネンの交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って実施している。薬変更時には、薬量や目的の把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や歌詞本・パズル・本・トランプを用意し、個々の趣味を生かし、気分転換を行えるよう環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行時は外出を控えている。コロナが落ち着いた時には、家族と外食や散歩に出掛けしている利用者もいる。また、花壇の花や畑の野菜の成長を見て楽しんでいる利用者もいる。	事業所は法人の4階に位置しているため毎日の外出は難しく、事業所に隣接する広い屋上ガーデンを利用し歩行を促している。花壇があり散歩の途中で水やりをしたり、近隣の歯医者に歩いて出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動スーパーで買い物ができるよう対応している。また、利用者が希望すれば自販機で飲み物を購入できるようお金を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いを作成し家族に郵送を行った。また、家族や知り合いからの電話や手紙のやり取りがある場合には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きいので、玄関や食堂に日が差し日光浴が出来る。食堂の天井が高く広い空間がある。	居間の壁には利用者と職員と一緒に作成した折鶴や、桜の木やお雛様などの季節の飾りが装飾され、利用者の意見で配置されている。共有部分の掃除は夜勤の職員が担当している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自ら椅子を移動し他利用者と楽しく話したり、趣味の絵を見せたり、塗り絵やパズル等を行えるようにしている。また、寮母室前の椅子では、一人で日向ぼっこしている利用者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望の家具やテレビを持ち込み落ち着いて過ごせる環境を作っている。	居室の掃除は利用者自身と職員と一緒にやっている。畳の部屋もあり、炬燵で生活している方もおり、以前使用していたテレビ、ラジカセ、ハンガーラックや配偶者の遺影や仏壇を持参してきている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には、手すりが設置されており、残存機能を活用して生活できるようになっている。		